

「文化芸術に関する意識調査」アンケート結果の概要

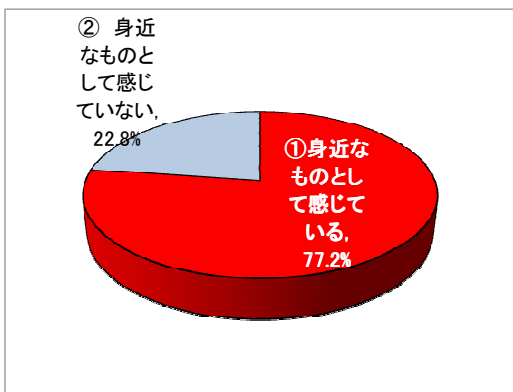
I 調査概要

調査対象	県内在住・20歳以上の男女 299人 (希望郷いわてモニター)	回答者 (回答率)	263人 (87.9%)
調査期間	平成26年7月17日(木)～31日(木)	調査方法	調査紙郵送及びインターネット

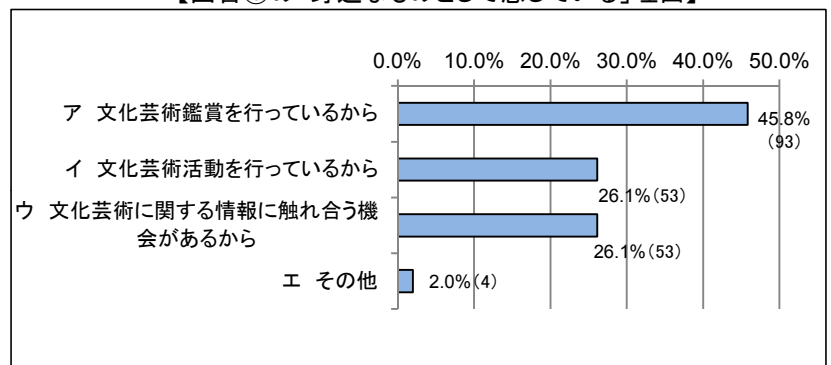
II アンケート調査結果の概要

設問1: 文化・芸術の「身近さ」について

77.2%の回答者が「文化芸術を身近なもの」と感じており、その理由としては「(文化芸術の)鑑賞を行っているから」が最も多い。

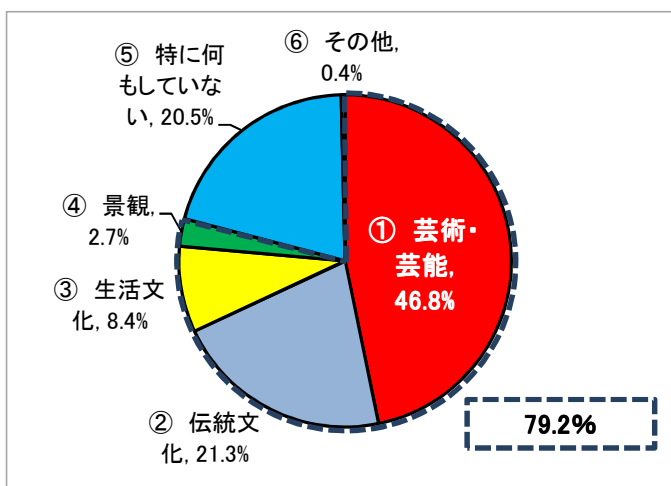


【回答①の「身近なものとして感じている」理由】



設問2: 過去1年間に行った文化芸術鑑賞・活動の分野は？

- ★ 約8割(79.2%)の回答者が、ここ1年間に何らかの文化芸術鑑賞・活動を行っている。
- ★ 最も多い分野は、「芸術・芸能」分野(46.8%)である。

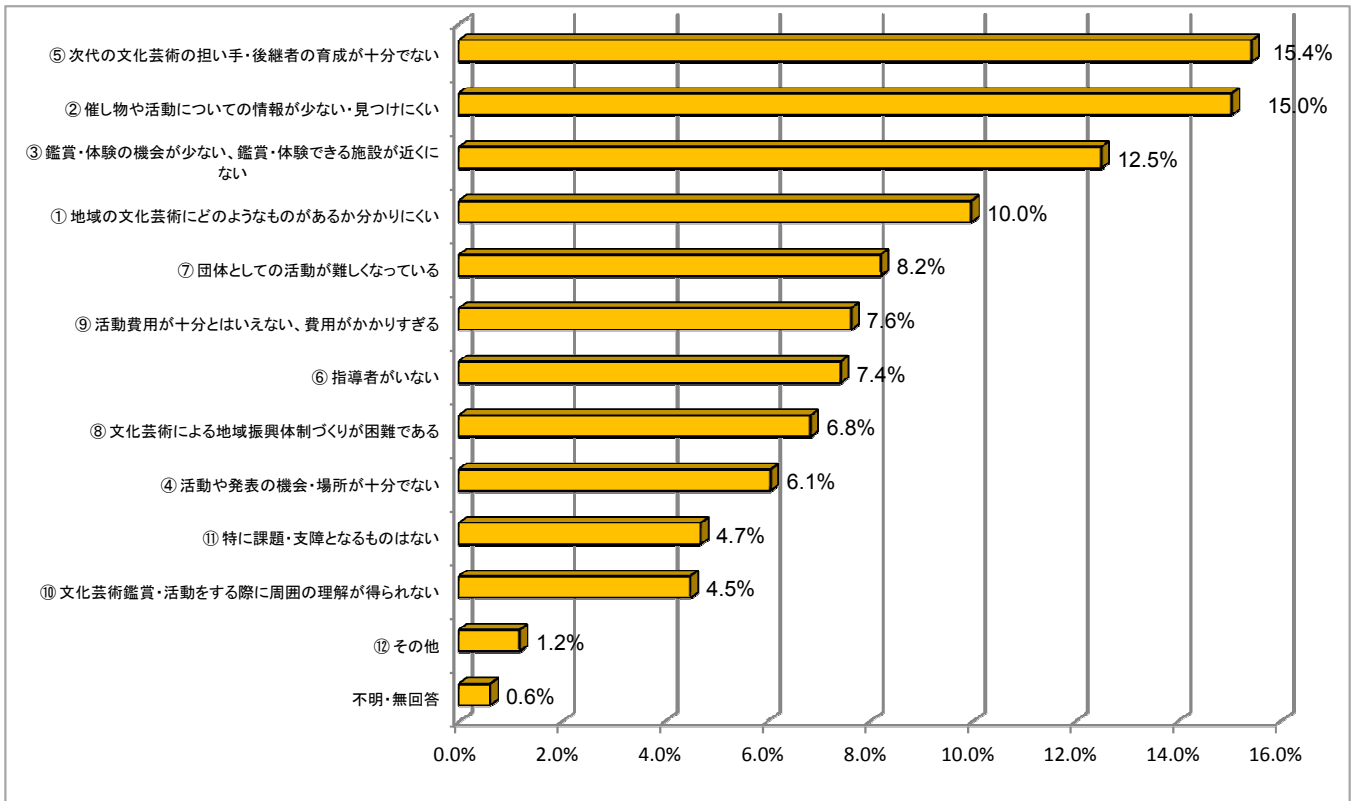


【各分野の内容(回答数の多い順)】

① 芸術・芸能	音楽鑑賞[28]、美術・絵画鑑賞[17]、映画鑑賞[13]、演劇・芝居鑑賞[10] など
② 伝統文化	伝統芸能鑑賞[7]、地域固有の年中行事への参加[4]、さんさ踊りへの参加[4] など
③ 生活文化	茶道[5]、書道(活動)[2] など
④ 景観	史跡・名勝・遺跡等の見学[5]、地域総点検活動・清掃活動[2] など

設問3: 文化芸術鑑賞・活動上の支障は？

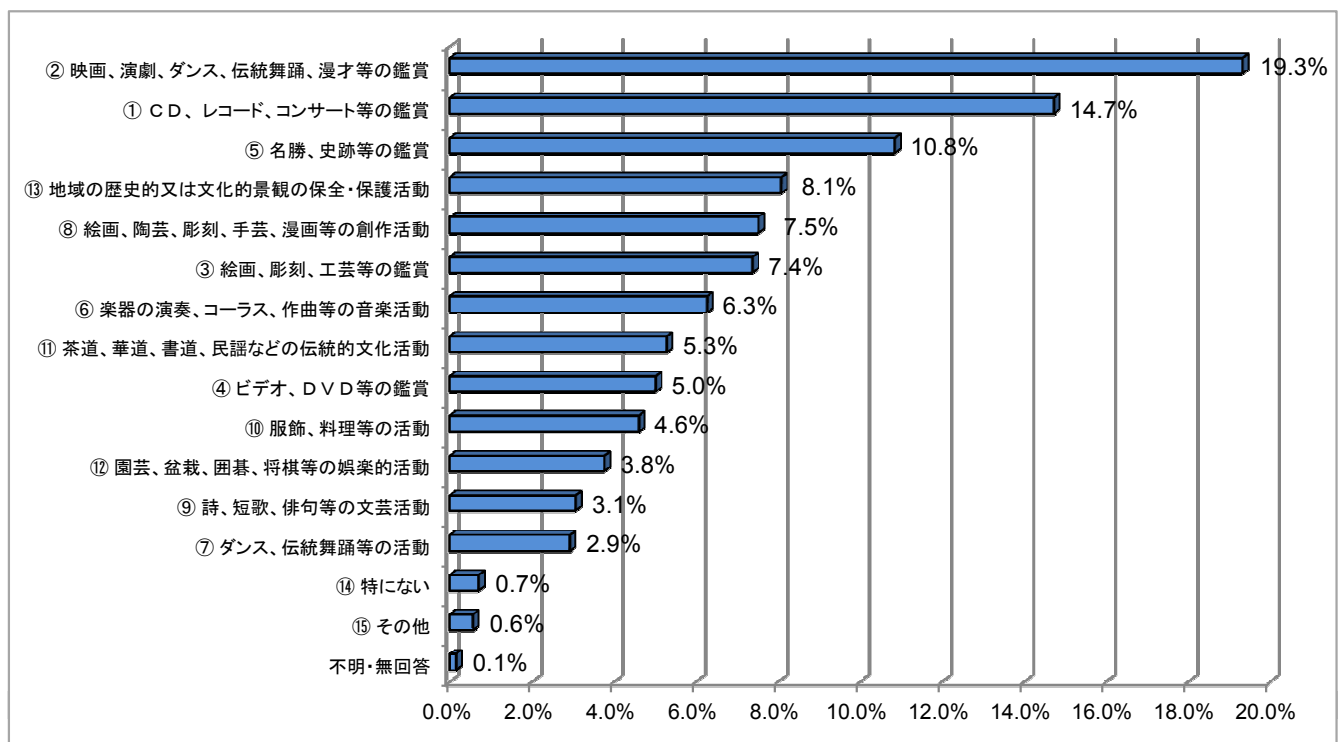
文化芸術の「全分野」で見ると、「⑤ 次代の文化芸術の担い手・後継者の育成が十分でない」、「② 催し物や活動についての情報が少ない・見つけにくい」といった回答が最も多くなっている。



設問4: 今後行ってみたい「鑑賞」又は「活動」は？

★ 設問2の「ここ1年間で主に行った文化芸術鑑賞や文化芸術活動について」と同様、**音楽・映画・演劇などの鑑賞に関する回答割合が特に高くなっている。**

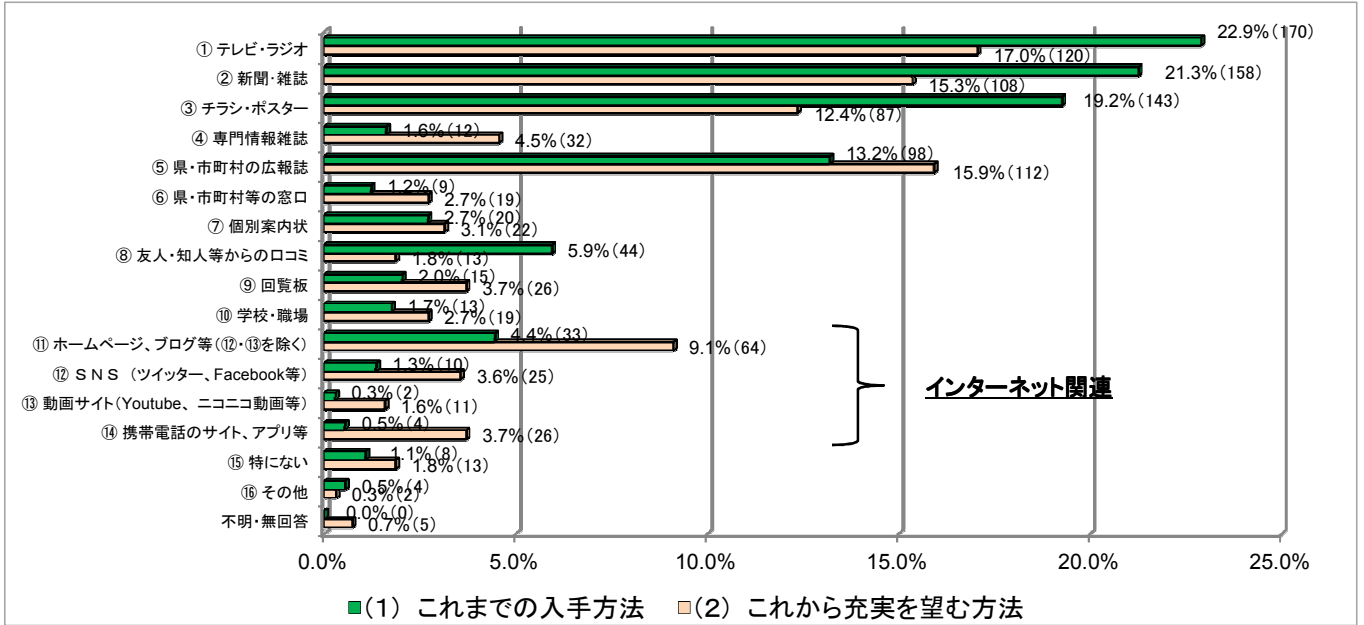
★ 設問2では「(4) 景観」の回答数は少なかったものの、**この設問**（「今後行ってみたい文化芸術鑑賞・活動」）においては、「⑬ 地域の歴史的又は文化的景観の保全・保護活動」の回答割合が高い状況（4位）となっている。



設問5: 「鑑賞」に関する情報の入手手段は? (⇒これまでの方法と今後充実を望む方法)

★ 「(1) これまでの入手方法」及び「(2) これから充実を望む方法」の両方において、「① テレビ・ラジオ」が最も回答割合が高い項目となっており、若干の順位の違いはあるが、「② 新聞・雑誌」、「③ チラシ・ポスター」、「⑤ 県・市町村の広報誌」の3項目も同様に、「(1) これまで…」と「(2) これから…」の2位～4位となっている。

★ 「⑥ 県・市町村の広報誌」や「⑥ 県・市町村等の窓口」などの行政による情報発信項目、「⑪ ホームページ、ブログ等」や「⑭ 携帯電話のサイト、アプリ等」のインターネット関連項目は、「(1) これまでの入手方法」よりも「(2) これから充実を望む方法」の回答割合が高くなっており、今後の充実を望む期待値が高いことが分かる。

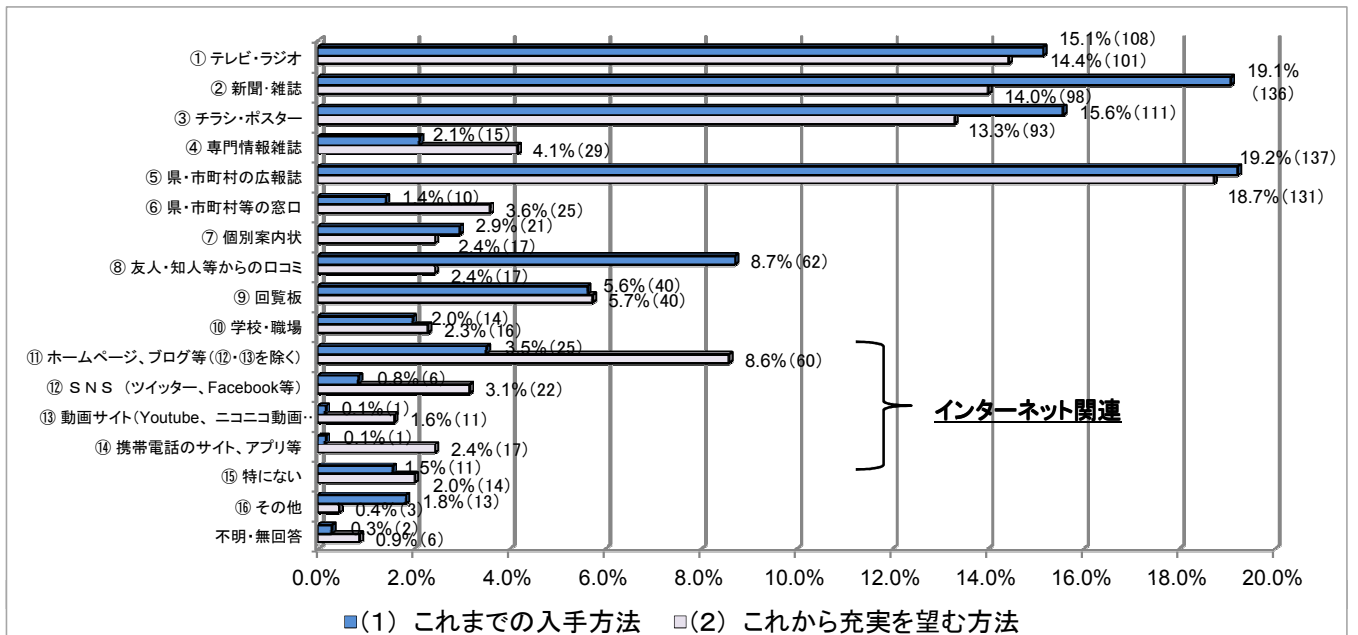


設問6: 「活動」に関する情報の入手手段は? (⇒これまでの方法と今後充実を望む方法)

★ 「(1) これまでの入手方法」及び「(2) これから充実を望む方法」の両方において、「⑤ 県・市町村の広報誌」が最も回答割合が高い項目となっており、若干の順位の違いはあるが、「① テレビ・ラジオ」、「② 新聞・雑誌」、「③ チラシ・ポスター」の3項目も同様に、「(1) これまで…」と「(2) これから…」の2位～4位となっている。

⇒ 「(1) これまで…」と「(2) これから…」の上位4項目は、問5と問6では同じ項目となっている。

★ 「⑪ ホームページ、ブログ等」や「⑫ SNS (ツイッター、Facebook等)」のインターネット関連項目は、「(1) これまでの入手方法」よりも「(2) これから充実を望む方法」の回答割合が高くなっており、今後の充実を望む期待値が高いことが分かる。

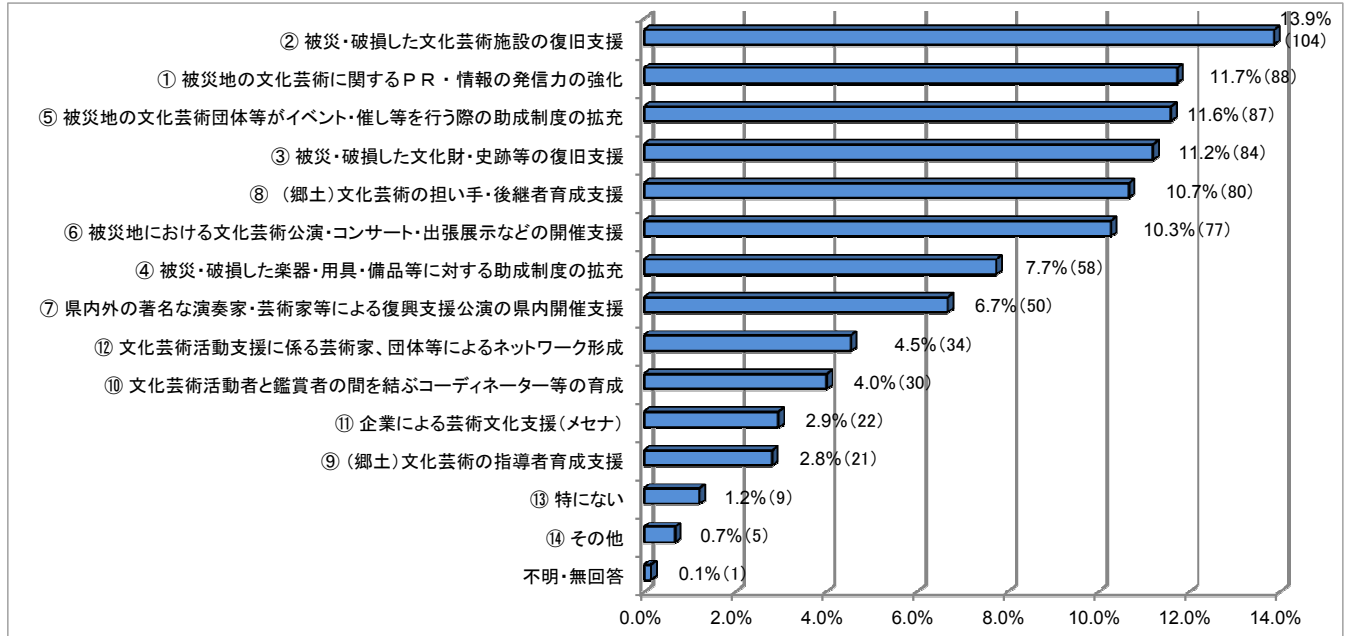


設問7: 震災後においてどのような文化芸術復興支援策が必要か？

「② 被災・破損した文化芸術施設の復旧支援」が最も高い回答割合（1位：13.9% [104]）となっているものの、

- ・ 2位： 「① 被災地の文化芸術に関するPR・情報の発信力の強化」（11.7% [88]）
- ・ 3位： 「⑤ 被災地の文化芸術団体等がイベント・催し等を行う際の助成制度の拡充」（11.6% [87]）
- ・ 4位： 「③ 被災・破損した文化財・史跡等の復旧支援」（11.2% [84]）
- ・ 5位： 「⑧（郷土）文化芸術の担い手・後継者育成支援」（10.7% [80]）
- ・ 6位： 「⑥ 被災地における文化芸術公演・コンサート・出張展示などの開催支援」（10.3% [77]）

と2位から6位までの項目との回答割合の差はあまり大きくないことから、施設・文化財等の復旧、情報発信への支援、後継者育成などの施策を総合的に行うことが望まれていることが分かる。

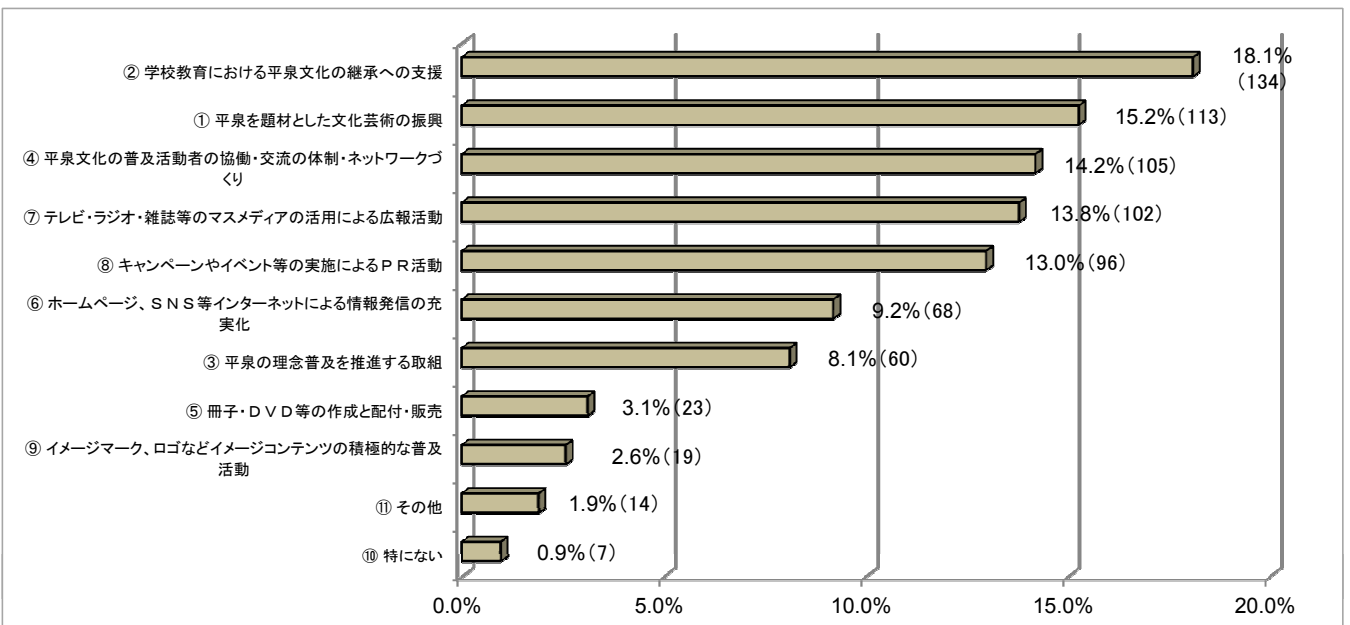


設問8: 平泉の魅力や情報の発信・普及に必要な取組は？

「② 学校教育における平泉文化の継承への支援」が最も高い回答割合（1位：18.1% [134]）となっているものの、

- ・ 2位： 「① 平泉を題材とした文化芸術の振興」（15.2% [113]）
- ・ 3位： 「④ 平泉文化の普及活動者の協働・交流の体制・ネットワークづくり」（14.2% [105]）
- ・ 4位： 「⑦ テレビ・ラジオ・雑誌等のマスメディアの活用による広報活動」（13.8% [102]）
- ・ 5位： 「⑧ キャンペーンやイベント等の実施によるPR活動」（13.0% [96]）

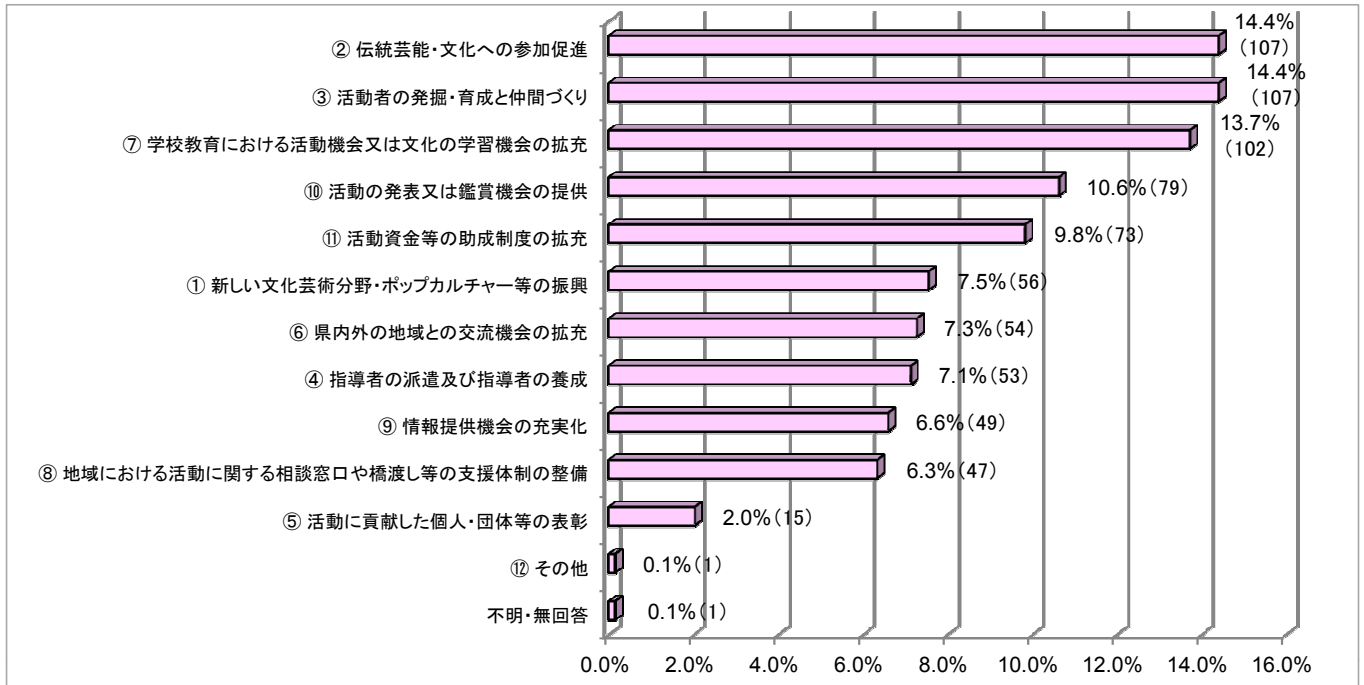
と2位から5位までの項目との回答割合の差はあまり大きくないことから、平泉文化の継承支援、情報発信・PR活動への支援、普及活動者のネットワークづくりなど、特に「平泉文化」普及のためのソフト・人的基盤の充実化が望まれている。



設問9: 若者が積極的に文化芸術活動へ参加するために必要な取組は？

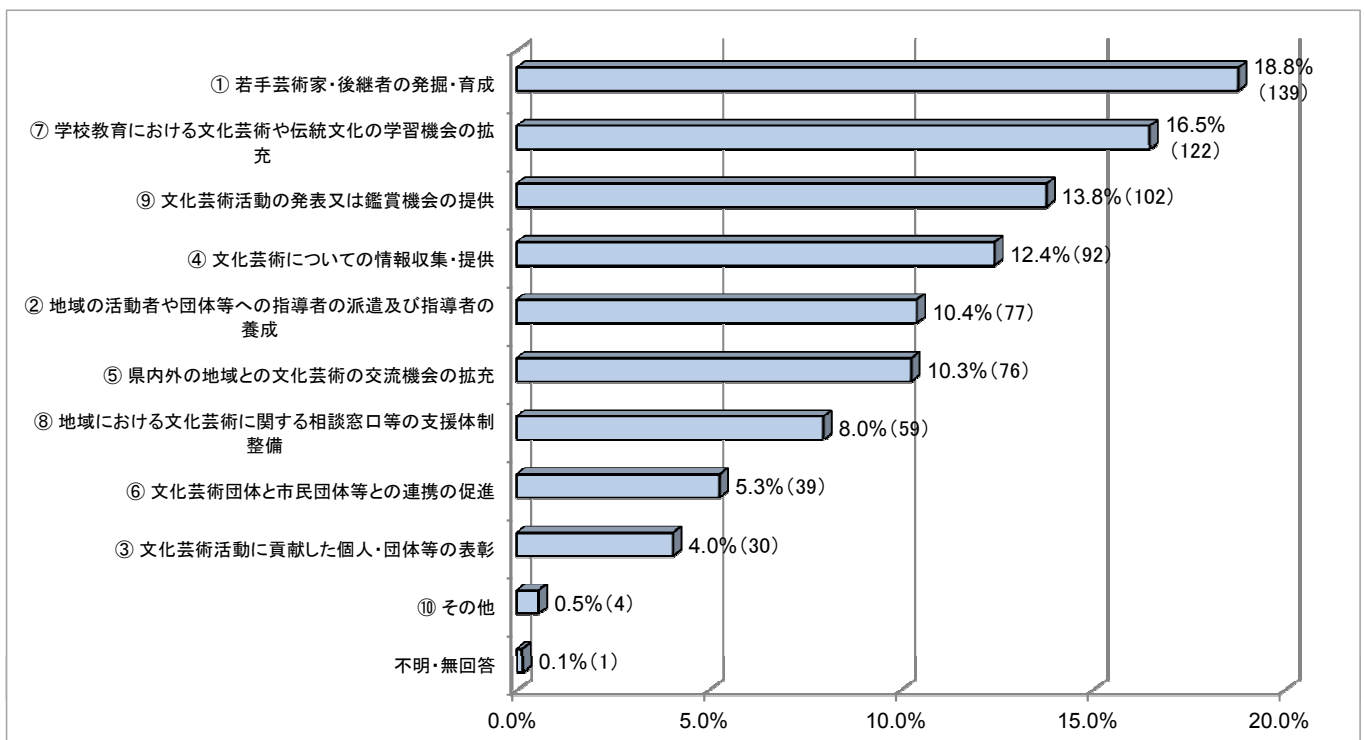
★ 回答割合の多かった上位3つの項目は、「② 伝統芸能・文化への参加促進」(14.4% [107])、「③ 活動者の発掘・育成と仲間づくり」(14.4% [107])、「⑦ 学校教育における活動機会又は文化の学習機会の拡充」(13.7% [103])となっており、このことから、学校教育において活動・学習の機会を増やしつづ、地域の若者を郷土芸能・文化へ取り込んでいくための取組が多く望まれていることが分かる。

★ 一方、回答割合4位の「⑩ 活動の発表又は鑑賞機会の提供」(10.6% [79])から10位の「⑧ 地域における活動に関する相談窓口や橋渡し等の支援体制の整備」もほぼ横並びの状況(ばらつきが大きい状況)であることから、新旧を問わない・総合的な文化芸術への若者参加の取組も必要であることが分かる。



設問10: 県民に対し、行政のサポートはどのようなものが必要か？

「① 若手芸術家・後継者の発掘・育成」(18.8% [139])、「⑦ 学校教育における文化芸術や伝統文化の学習機会の拡充」(16.5% [122])の回答割合が多くなっており、「活動者・後継者(ひと)の育成」と「学校教育における文化芸術学習等の機会充実」が強く望まれている。この傾向は、設問9の「若者の文化芸術への参加」に関する回答結果と類似している。



設問11: 岩手の文化芸術を構築・振興するうえで、より望ましい将来像・理想像は？

「① 多くの県民が日常的に岩手の文化芸術に慣れ親しんでいる姿」(18.6% [141])、「⑩ 岩手の伝統的な文化芸術が受け継がれ発展していく姿」(16.9% [128])の回答割合が多くなっている。

